



## 中島台レクリエーションの森

マイナスイオンたっぷり、毎年多くの観光客が訪れる中島台レクリエーションの森。この森には、異形ブナのあがりこ大王をはじめ、国指定天然記念物の獅子ヶ鼻湿原などたくさんの見どころがあり、そこは正に大自然の博物館となっています。本号では、8月11日の山の日にお合わせ、鳥海山のすそ野に広がる中島台レク森の魅力を紹介します。



あがりこ大王

### 昔の中島台

炭焼きをしていたころは、中島台はこんな太いブナがゴロゴロしていました。



中島台レク森には、写真のような動物たちが訪れた人々を出迎えてくれます。このほかにも動物たちが隠れているので、探しに行ってみてはいかがでしょうか。



▲モンキーダンス

▲小熊

▲大蛇

この森の象徴的存在は、樹齢300年、幹回り7・62mの「あがりこ大王」。異形ブナとしては日本最大級の幹回りで、「森の巨人たち百選」にも選定されています。そして、近年新発見された「あがりこ女王」は艶やかに14本の幹が身近に隠された宝物に会いに行つてみませんか。この夏、舞い、大王とはまた違った魅力があります。



▲燭台ブナ 西洋のロウソク立てを思わせる姿のブナ。別名「ニンフ（森の妖精）の腰掛」

### 森の大王と女王



まるで子だくさんの女性のような容姿から「あがりこ女王」と命名されました。



山の日とは日本の国民の祝日の一つで、山の恩恵に感謝し、自然に親しむ祝日として2014年に制定され、2016年から施行されました。

## 『異形木群がつくる生命の神秘的空間』



炭焼窯跡

森林内に残る昭和初期の炭焼窯跡。当時は窯の前に小屋を建て、冬場住み込みで炭を焼いていました。

訪れた人々を魅了する中島台レク森。ここには異形のブナが数多く生息していて、そこは生命の神秘的空间となっています。なぜ、このような神秘的な森ができるか、皆さんご存知でしょうか。かつてこの森では、炭の材料として雪の上から出た部分のブナを伐採していました。それが繰り返され伐り口がコブ状に形成し、そこから芽を出し続け今日の姿となりました。江戸時代末期から行われた炭焼きは戦後まで続き、先人から現代に生きる私たちへ贈り物となりました。